

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2026年2月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2026年2月13日～2月28日
- 調査対象 200社
- 回答企業 123社
- 回収率 61.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況※全産業の2月の状況を見ると業況DIは、前月より4.1ポイント悪化の▲22.8となった。

2017年9月以来102ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲13.0、当月と比べ9.8ポイント改善が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2025年 9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	先行き見通し 2026年3月～ 2026年5月
業況	▲20.9	▲25.3	▲19.2	▲13.6	▲18.7	▲22.8	▲13.0
売上	▲6.7	▲10.0	▲4.8	▲6.4	▲3.9	▲12.2	▲2.4
採算	▲21.6	▲26.9	▲16.0	▲15.2	▲21.1	▲17.0	▲10.6
仕入単価	▲60.5	▲58.4	▲56.0	▲56.0	▲53.2	▲55.2	▲52.9
販売単価	21.7	23.9	26.4	20.8	26.5	26.8	26.8
従業員	33.6	35.4	35.2	32.0	34.3	35.0	36.6
資金繰り	▲8.9	▲14.6	▲12.8	▲15.2	▲14.9	▲15.4	▲13.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年 9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	先行き見通し 2026年3月～ 2026年5月
建設	▲24.1	▲35.5	▲34.5	▲35.7	▲34.5	▲27.6	▲20.7
製造	▲23.3	▲23.4	▲24.2	▲6.6	▲13.8	▲17.2	▲3.4
卸売	▲16.7	▲17.9	▲10.7	▲13.3	▲17.9	▲27.0	▲15.4
小売	▲44.4	▲41.2	▲17.6	▲26.7	▲35.3	▲25.0	▲25.0
サービス	▲3.7	▲12.5	▲4.6	13.7	4.0	▲17.4	▲4.4

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の仕事が激減する予測で札幌に営業所を新設し、地方に営業した結果が良い方向へ繋がった。今後札幌方面増加の見通し。（総合工事） ・例年 12 月から 3 月は業務受託が減少する時期であるが、今期より冬場の公園利活用を目的とした運営管理業務（ドックラン施設）を受託し、採算の好転に繋げることが出来た。業務の受託量は増えつつあるが、業務遂行のための人員不足は依然として改善しない状況である。（設備・その他） ・建築資材価格の上昇等により新築住宅価格が上昇している結果、低価格帯の住宅や中古住宅への需要シフトが起こり、注文住宅の受注は厳しさを増している。このような環境下ではあるが、当社としては高品質、高性能を追求したブランディング戦略を基盤とした経営に徹するほかないと考える。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事量は前年対比で良好に推移している。（食料品） ・インバウンド需要が増加し、ホテルや商業施設からの問い合わせが増えてきている。工場のスタッフが足りないと感じるようになった。（家具・木材） ・売上高増加傾向で推移している。コロナ前の売上高に近づきつつある。（家具・木材） ・4 月から値上げを通告されている仕入パーツ類が多く出てきている。更に販売価格値上げを検討中。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・道内外で大雪の影響があり、関連商材の動きがみられた。又、物価高の影響で単価が上がっていることも手伝って昨対を越えることができた。但し慢性的な消費の低迷もあり、先行きは厳しいとみている。（繊維衣服） ・仕入単価の上昇があり価格転嫁をしっかりとし、且つ販売数量の増加もしていかなければいけない。（機械鋼材等） ・25 年問題で葬儀需要の落ち込みが予想以上に激しい。また悪天候で路面店の客足が減少している。昨年末から卸売業は大苦戦している。（その他） ・2 月に入り灯油の仕入価格は上昇しているが、販売価格は現状のまま推移するものと思われる。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・春夏商品が本格的に入荷してきたが前年より価格が 10%アップ。まだ雪が多く気温が不安定なため来店客数も少ない。2 月は冬物から春物(衣料)への衣替え時期のため SNS で顧客に新商品の入荷情報を拡散し来店を促したい。（衣服身回品） ・冬まつりの開催もあり、市内は人も多く海外インバウンド客の姿も数多く見られ、昨年多く見られた中国本土からの観光客についても、渡航制限の影響を感じさせない賑わいとなった。弊社の動向としては、モーニング帯が引き続き好調を維持、安定した集客に繋がっている。（食料品） ・道内における新車受注状況は前月に続き前年割れとなっていることから、3 月決算期及び 4 月以降も非常に不透明であると捉えている。（自動車） ・ガソリンの暫定税率廃止により売上高が減少。また多雪により洗車需要低迷する一方で、除雪による軽油需要、暖房燃料の需要は堅調に推移している。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド比率が昨対プラス 10%、単価も上がったことにより売上 10%（昨対）近く上昇。軽食など食材コストは上がり続けており、4 月から値上げを余儀なくされた。1～3 月の光熱費支援は非常に助かっている。（ホテル・旅館） ・必要コスト全般に値上がりしている。販売単価が上がってもすべてコスト高にのみこまれている。（ホテル・旅館） ・賃上げの実施に加え、稼働時間が増えたことで人件費が大きく上回り採算が悪化した。生産性の向上に向けて業務の見直しを実施中。（その他） ・人員不足に加えて病欠欠勤者の増加もあり、円滑な営業に支障が出るため緊急措置で対応せざるを得なかった。冬期の観光シーズンはピークが大きい上に短期間に集中するためチャンスロスのリスクが大きい。中華圏の春節、選挙、JR 運休等で入り込み数が減少したと思われる。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 D27.7ポイント悪化、採算 DI13.8ポイント改善、仕入単価 DI横ばい、販売単価 DI6.9ポイント改善、資金 DI0.1ポイント悪化、従業員 DI横ばい。総じて業況 DIは 6.9ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他横ばい、総合工事 8ポイント、建築業 2ポイント改善となった。工事受注量は昨年並みであるが、下請施工費及び資機材価格の高騰により利益を圧迫しているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI17.3ポイント悪化、採算 DI3.5ポイント悪化、仕入単価 DI10.4ポイント悪化、販売単価 DI17.2ポイント改善、資金 DI3.5ポイント改善、従業員 DI3.4ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DIは 3.4ポイント悪化となった。業種別では、金属窯業他 1ポイント改善、印刷・出版横ばい、食料品 14ポイント、家具・木材 3ポイント悪化となった。原材料エネルギー価格労務費等のコスト増や価格転嫁、設備投資との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI10.2ポイント改善、採算 DI6.1ポイント改善、仕入単価 DI4.0ポイント改善、販売単価 DI20.8ポイント悪化、資金 DI4.7ポイント悪化、従業員 DI5.5ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DIは 9.1ポイント悪化となった。業種別では、その他 29ポイント改善、繊維・衣服等 33ポイント、食料品 24ポイント、機械鋼材 5ポイント悪化となった。当月の業況は前年同期と比べると若干下回る。営業担当者からの聞き取りで、見積書の作成件数は増えているとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI27.9ポイント改善、採算 DI16.6ポイント改善、仕入単価 DI3.0ポイント悪化、販売単価 DI0.7ポイント改善、資金 DI10.3ポイント改善、従業員 DI3.7ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DIは 10.3ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、その他横ばい、食料品 17ポイント、自動車 25ポイント改善となった。食料品物価の上昇による買い控えの影響がある。仕入価格・人件費の増加に伴い、収益が圧迫されているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI18.9ポイント悪化、採算 DI8.7ポイント悪化、仕入単価 DI1.3ポイント悪化、販売単価 DI4.8ポイント悪化、資金 DI10.1ポイント悪化、従業員 DI7.2ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DIは 21.4ポイント悪化となった。業種別では、理美容・クリーニング 50ポイント、運送 8ポイント改善、その他横ばい、ホテル・旅館 33ポイント、飲食 20ポイント、整備業 83ポイント悪化となった。外国人が増加した反面、国内利用客が大きく減少。単価上昇による影響、ビジネス利用客は出張旅費高により宿泊できないという事例が増加との声も寄せられている。</p>